

CBI 学会 2019 年大会 シンポジウム SP04



# BINDS ワークショップ

10/23 Wed.  
14:30-16:00

会場：CBI 学会 2019 年大会会場  
タワーホール船堀 2 階『福寿』  
(〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1)

## 「公的 D B の活用による創薬への戦略的アプローチ」 Strategic approaches by using public data bases in drug discovery

### ■モデレーター

上村 みどり (帝人ファーマ株式会社)

善光 龍哉 (国立研究開発法人日本医療研究機構 (AMED))

### ■講演者

1. 横断的オミクス解析によるゲノム創薬への挑戦

岡田 随象 (大阪大学)

2. Protein Data Bank とデータの品質管理

栗栖 源嗣 (大阪大学)

3. 個別化創薬の実現に向けた日本人大規模ゲノムコホートデータの活用

木下 賢吾 (東北大学)

【お問い合わせ先】

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 創薬戦略部 医薬品研究課

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル 22 階

TEL : 03-6870-2219 FAX : 03-6870-2244

E-mail : 20-ddlsg-16-ml@amed.go.jp URL : <https://www.amed.go.jp/>

# 開催趣旨

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）は、設立以来、世界最高水準の医療・サービスの提供や健康長寿社会の実現に資するための医療研究開発を推進してきた。ひとりひとりのゲノム情報に基づくテーラーメイド医療の実現に向け、臨床情報やデータ解析結果等を含めたゲノム情報の共有・公開を目的としたデータシェアリングポリシーを策定し、適用事業を難病分野、さらに感染症事業等へ順次拡大している。本シンポジウムでは、本領域の最前線でご活躍されている三人の先生方をお招きして、公的DBを如何に戦略的に使って、効率的な医療研究開発に活用していくかを議論する場としたい。

## 講演要旨

### 1. 横断的オミクス解析によるゲノム創薬への挑戦

岡田 随象（大阪大学）

次世代シーケンサー技術の発達とゲノム配列解読コストの低下に伴い、大容量のゲノム・エピゲノム情報が日々出力される時代が到来した。大規模疾患ゲノム解析により、数多くの疾患感受性遺伝子が同定されている。ゲノム創薬のボトルネックは、データを取得することから、世に存在するデータをいかに活用するか、へとシフトした。本講演では、分野横断的なオミクス解析がどのように創薬に貢献できるか、我々の取り組みと共に紹介したい。

### 2. Protein Data Bank とデータの品質管理

栗栖 源嗣（大阪大学）

蛋白質構造データバンク（Protein Data Bank：PDB）は、蛋白質、核酸、糖鎖など生体高分子の立体構造情報を集めたデータベースである。阪大蛋白研の PDB Japan (PDBj) は PDB のアジア拠点として活動している。今回の発表では、PDBj が国際連携で進めてきた厳しい品質管理と構造データに対する検証レポートの充実・RDF 化について紹介します。

### 3. 個別化創薬の実現に向けた日本人大規模ゲノムコホートデータの活用

木下 賢吾（東北大学）

これまでの創薬は、多くの人に利用可能な薬の開発が行われてきた。しかし、個人毎にゲノム配列は異なり、薬のターゲットとなる遺伝子も個人毎に異なる。その結果として、薬とターゲットタンパク質の相互作用も個人毎に異なることがある。本講演では、東北メディカル・メガバンク計画で行われている日本人大規模ゲノム・オミクス解析情報ポータルである jMorp（日本人マルチオミクス参照パネル）データベースを紹介しつつ、個別化創薬に向けた最近の取り組みを紹介したい。